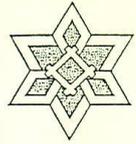


# ふくい

舞鶴市立福井小学校  
令和6年11月29日発行  
(本年度9号)



児童会 人権旬間の取組  
あったかい言葉で心ポカポカ大作戦

## 秋深し、ラストスパートに向けて

朝晩が急に寒くなり秋の深まりを感じる今日この頃です。昼間は暖かかったり急に雨が降ったり天気が不安定なのもこの時季の特徴です。新型コロナの感染も心配ですが、これからはインフルエンザの流行も…。健康管理も万全に2学期のラストスパートに向かいたいです。

少し汗ばお陽気の中で実施した「校内マラソン大会」では、どの子も完走目指して一生懸命走りました。1年生は初めての大会で、スタート前は不安そ

うでしたが、元気いっぱいの姿が見られ、みんなゴールすることができました。高学年では毎日練習を積み上げてきた駅伝チームを中心に頑張りました。今年もシルバーボランティアの方々にコースの草刈りや当日の走路員をお世話になりました。また、沿道では多くの保護者の皆様や防推、民生、見守りの皆様に走路員や応援をいただき、ありがとうございます。長距離を走る事は子どもによって得意・不得意がありますが、自分の身体だけが頼りですから、頑張った分だけ自分の自信に繋がります。気持ちを奮い立たせてゴールを目指した経験は、確かに心と身体の成長につながっていると思います。

紀元前490年にギリシャ軍の兵士ピリッピデスが「マラトンの戦い」の勝利を報告するために古代ギリシャのマラトンから約40km離れたアテナイ（アテネ）まで走りました。しかし役目を終えた彼は力尽きてしまいます。その兵士を悼み競技として第1回アテネオリンピックで採用されたのがマラソン（マラトン＝地名＝語源）の始まりだそうです。第1回大会ではイタリアのドランド・ピエトリが疲労困憊ながら1位でゴールしますが、ゴール手前で何度も倒れ係員の補助を受け失格となります。ところがレースを見守った7万人の観衆や女王は彼の姿に感動し、メダルに代えて銀のカップを贈ったそうです。金メダルは2位でゴールしたアメリカのジョニー・ヘイズ。当時マラソンは概ね40kmほどとされ大会により距離が違いました。42.195kmだったのは1908年第4回ロンドン大会で、計画では約42km（26マイル＝41.842km）の予定でしたが、女王アレキサンドラが宮殿の窓から見える前庭をスタートし競技場のロイヤルボックス前をゴールにせよとの要求に応え距離が追加され42.195kmになりました。後の大会も距離は曖昧でしたが、第8回パリ大会から42.195kmが正式な距離として採用されています。

市民ランナーにも人気が高いマラソンですが、マラソンを代表とする長距離競技は当時から注目されており、後に怪物級の選手が現れます。「人間機関車」チェコのエミール・ザトベックや「裸足の英雄」エチオピアのアベベ・ビキラ。アベベはローマ大会で何と裸足でローマの石畳を走り見事金メダルを獲得。4年後の1964年東京大会では、1か月前に盲腸の手術をしていたにもかかわらず圧倒的な速さでオリンピック初の2連覇（東京では靴を履いていた）を達成しています。現在では日本人選手のメダリストも多く、世界で活躍しています。「走る」が苦手な人にとって「走る事を楽しむ」など想像もできませんが「走る」事に魅力を感じる人も多いようです。過日行われた「舞鶴赤れんがハーフマラソン」では2750人が出走し最高年齢は79歳。2kmクラスでは84歳だそうです。運動と健康を短絡的に結び付けるのも問題がありますが気軽に運動を楽しみ、自分に合ったレベルの運動を常に意識する事も大切にしたいです。

2学期も後17日。締めくくりをしっかりと、気持ちよく年末を迎えたいです。保護者地域の皆様には、ご理解ご協力をお願いいたします。校長 波多野暢 教職員一同

